

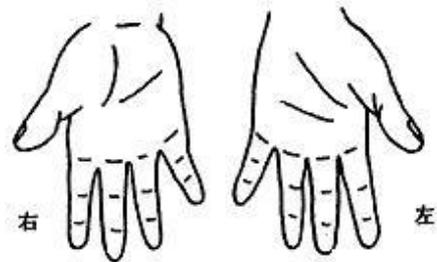
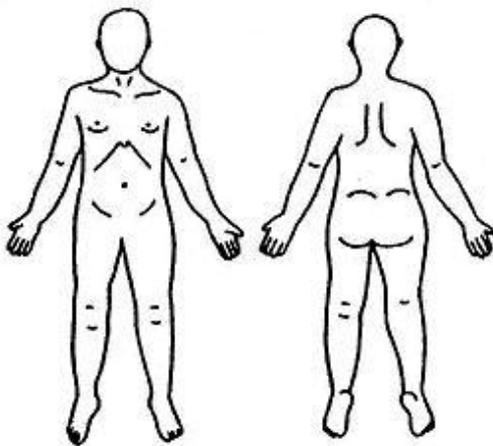
肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入。）

- 1. 感覚障害（下記図示） : なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2. 運動障害（下記図示） : なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3. 起因部位 : 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4. 排尿・排便機能障害 : なし・あり
- 5. 形態異常 : なし・あり

[

参考図示



右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

X 変形 ■ 切離断 ▨ 感覚障害 ▨ 運動障害

(注)関係ない部分は記入不要

動作・活動 自立-○ 半介助-△ 全介助又は不能-X、()の中のものを使う時はそれに○

寝がえりする		シャツを着て脱ぐ	
あしをなげ出して座る		ズボンをはいて脱ぐ(自助具)	
椅子に腰かける		ブラシで歯をみがく(自助具)	
立つ(手すり、壁、杖、松葉杖、義肢、装具)		顔を洗いタオルで拭く	
家の中の移動(壁、杖、松葉杖、義肢、装具、車椅子)		タオルを絞る	
洋式便器にすわる		背中を洗う	
排泄のあと始末をする		二階まで階段を上って下りる(手すり、杖、松葉杖)	
(箸で)食事をする(スプーン、自助具)		屋外を移動する(家の周辺程度)(杖、松葉杖、車椅子)	
コップで水を飲む		公共の乗物を利用する	

注：身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

計測法：

上肢長：肩峰 → 橈骨茎状突起

前腕周径：最大周径

下肢長：上前腸骨棘 → (脛骨) 内果

大腿周径：膝蓋骨上縁上 10 cmの周径（小児等の場合は別記）

上腕周径：最大周径

下腿周径：最大周径

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は必要な部分を記入)

筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()
() 前屈		後屈 () 頸 () 左屈		右屈 ()
() 前屈		後屈 () 体幹 () 左屈		右屈 ()
右 () 屈曲		伸展 () () 伸展		左 () 屈曲 ()
() 外転		内転 () 肩 () 内転		外転 ()
() 外旋		内旋 () () 内旋		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 肘 () 伸展		屈曲 ()
() 回外		回内 () 前腕 () 回内		回外 ()
() 掌屈		背屈 () 手 () 背屈		掌屈 ()
() 屈曲		伸展 () 中 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 中 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 中 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () (M P) () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 近位 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 指 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 外転		内転 () 股 () 内転		外転 ()
() 外旋		内旋 () () 内旋		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 膝 () 伸展		屈曲 ()
() 底屈		背屈 () 足 () 背屈		底屈 ()

備考

注:

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を 0 度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線 (Σ) を引く。
4. 筋力については、表 () 内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失または著減 (筋力 0、1、2 該当)

△印は、筋力半減 (筋力 3 該当)

○印は、筋力正常またはやや減 (筋力 4、5 該当)

5. (PIP) の項母指は (IP) 関節を指す。
6. DIP の他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展 屈曲 (△)